

臨時議会 常任委員など議会構成決まる

第一回臨時議会が五月八日開かれ、村税条例の一部改正や議会の各常任委員の選任など、七議案を審議し、原案通り可決、承認されました。

おもな議案

■村税条例の一部改正
○均等割税率の改正。一、〇〇〇円を一、五〇〇円に
○固定資産税徴収の特例の改正。全額徴収する金額四〇〇円を二、四〇〇円に
○ミニカーに係る税率の適正化。三輪以上の原付き自転車等排気量〇・〇二リを越え〇・〇五リ以下のもの年

額三、五〇〇円に
(ただし、二月十五日以前に保有するものは、当分の間一、〇〇〇円)
○優良住宅地等の造成のために土地等を譲渡した場合の課税の特例。六十一年度から六十三年度まで存続

■専決処分
農業共済事務費賦課総額の変更
一般会計補正予算
水道事業会計補正予算

■常任委員等の選任
議員の各常任委員会所属及

毎月20日は「なんでも相談」 村長と対話しよう

59年度は、14人、16件の相談

村民との対話で開かれた村行政をすすめていこうと、昨年四月から毎月二十日に行ってきた「なんでも相談」が一年経ちました。
これまで十四人、十六件の相談事項があり、当初予想していたより若干下回る結果に終わりました。

「なんでも相談」が開設したばかりの四月には、八人、七件、五月は二人、四件とさいさきよいためスタートを切りましたが、相談ゼロの月が八か月もあるなどやや低調。相談内容は、県有地払い下

- び正副委員長は、前回と変わらない。
総務文教常任委員会
委員長 佐藤正明
副委員長 石川敬一
委員 高橋徳一、高橋三樹、佐藤三雄、渡辺哲二、茅原新二

- 建設常任委員会
委員長 佐久間正夫
副委員長 浦井幸一
委員 伊藤栄蔵、坂内俊夫、大森勉、原清、今井誠
議会運営委員
委員長 伊藤栄蔵
副委員長 渡辺哲一、佐藤正明、岩田正夫、阿部正夫、阿久間正夫

村事業推進に協力要請

昭和60年度嘱託員会議

昭和六十年度の嘱託員会議が五月十四日役場で開かれ、村から昭和六十年度予算の概要、役場機構、各課業務依頼事項などの説明がされたほか、村事業の円滑な推進に協力を要請しました。

- 昭和六十年度の嘱託員は、次のとおりです。
横越上 佐藤豊次
横越中 佐藤豊次
横越下 坂井幸雄
川根谷内 伊藤栄蔵
沼海上 坂井幸雄
沼海中 坂井幸雄
沼山下 高橋徳一
焼山 安彦喜衛
木津上 佐藤千代志
木津中 今井長蔵
木津下 今井長蔵
二本木上 横山七郎
二本木下 横山七郎

6月の納税
村県民税 第1期
国民年金保険料 第2期
納税には、自動的に納税できる口座振替制度があります。ご利用を

外国人の観察力

五、六年前から小生の家にフランス、オーストラリア、台湾など、外国の学生が来て宿泊されている。長い人で一か月余り、再び訪ねてくる人もいる。

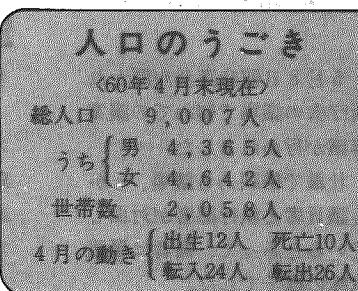
それらの学生が異口同音に日本人を、(一)自己の長所を知らずに短所ばかり露出して、(二)家庭の醜態を公衆食堂にまで持ち込む。(三)自主性のない人まね教育を喜ぶ。(四)失敗した時ニヤリと笑って済ませる。(五)自分の国に対して誇りを持たない。(六)子供天国である。(七)家のゴミを隣りの庭先に平気で捨てる。(八)ルールを余り重視しないなど、という先入観念で来るようだと、それは間違っていたと

「ごく一部の人間だよ」という声に彼に理解出来ただろうか。「知っているがルールを守るに絶対許せるものではない」といった語氣に対していつまでもこのように日本人と思われたくないと思う気持ちと、次の代を背負う青年に對して期待している。

ら、平気でさらけ出している。自分自身の慰めのために家庭内のいざこざを他人に吹聴すること。投げ捨てる空き缶の多いこと。毎日のように新聞に出てくる交通違反。考えで見ると、日本人として汗顔の至りである。また、先月来訪したアメリカ

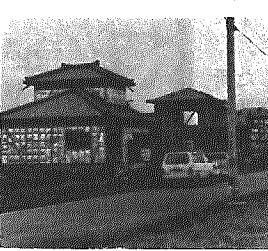
の投げ捨ての多いのに、思った通りだというような顔をしていながら非常に残念だと言った。また、道路、階段、駅、博物館等で「日本の青年は、なぜ狭い道路をより狭くするのか。」日本は、人は右、車は左。というルールがあるのといわれ、

「ごく一部の人間だよ」という声に彼に理解出来ただろうか。「知っているがルールを守るに絶対許せるものではない」といった語氣に対していつまでもこのように日本人と思われたくないと思う気持ちと、次の代を背負う青年に對して期待している。



オーケストラの生演奏に うっとり
五月十六日、横越小学校体育館で横越村と京ヶ瀬村の小中学生を対象に、群馬交響楽団による移動音楽教室が行われました。これは、小・中学生からオーケストラの生の演奏にふれオーケストラの編成及び楽器、聴取者のマナーを知ってもらうと、県教育委員会などが主催したもので、指揮者で総員五十六人、会場いっぱいに鳴り響くオーケストラの生の演奏にひたっていました。

公社横越団地 住宅建ち、団地の様相に
昨年九月、応募者が二・六倍あった県住宅供給公社横越団地に四月から住宅二戸が建ちました。(七区画宅地のみ分譲)
同団地(六六八区画)には、昨年春の分譲で四戸、そして六月一日から十日間行われる展示住宅分譲で十二戸が建ち、また、七月上旬に一般住宅と積立住宅の分譲十五区画も予定され、いよいよ、住宅団地の様相になってきました。



依然多いポイ捨て空き缶
四月二十五日から五月二十五日までの「春の環境美化月間」に先がけて、村では、四月二十一日、村民約一、三〇〇人が参加して、村内主要道路のポイ捨て空き缶のクリーン作戦を行いました。回収された空き缶などのごみは、一トトラックで二台分、昨年秋行ったときより五台分多く、依然多いポイ捨て空き缶に、回収にあたった村民は、嘆いていました。
また、五月十二日、鳥屋野濁流城市町村による鳥屋野濁のクリーン作戦も行われ、横越村からも二十人ほどが参加しました。

自転車正しい乗り方コンテスト
五月二十六日、横越村農協の主催で、自転車の正しい乗り方を競う「自転車安全運転コンテスト」が、小学生や大人、お年寄りら三三人が参加して行われました。
農協構内に特設の道路や横断歩道、ミニ信号機などが取り付けられ、普段何気なく乗っている自転車も、新潟南署の警察官や村交通安全協会役員による審査員を前にしたコンテスト

敬老会招待者 年齢引き上げ
毎年各地の敬老会で呼び七十歳以上のお年寄りを招待してきましたが、昭和六十年度から、毎年招待年齢を一歳づつ引き上げ、六十四年度から呼び七十五歳になられた方を招待することになりました。
あらかじめご了承ください。